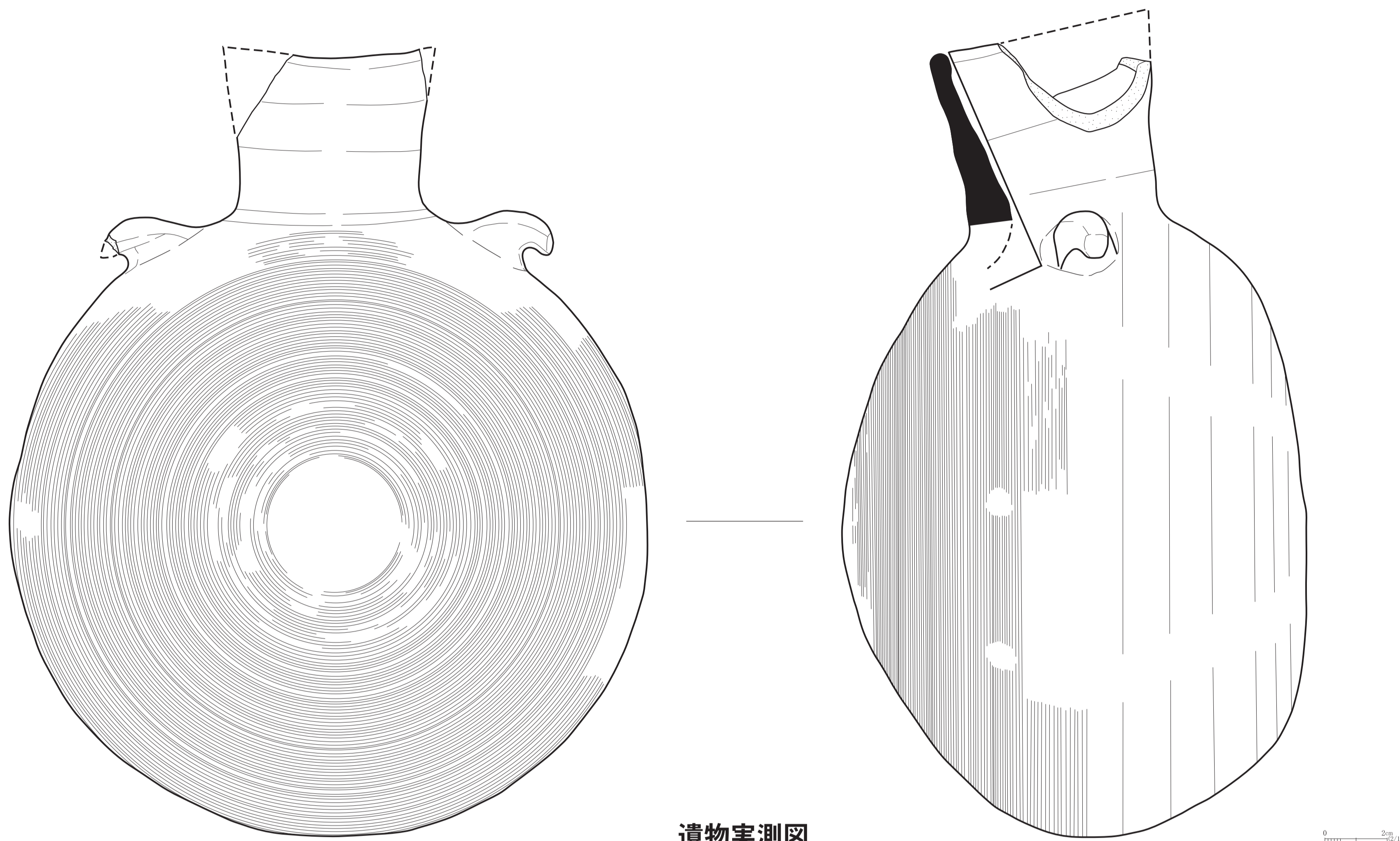


情報提供あり！ 昭和3年出土か

須恵器 提瓶



資料の概要

- 資料名：須恵器 提瓶
- 所属時期：古墳時代後期
- 出土地：不明
- 出土年月日：不明

提瓶(さげべ)とは、扁球形の体部に口縁が付く容器のことです。肩部に環状または角状の双耳が付くことから、紐をかけ持ち運ぶ、現在で言う「水筒」のような容器と考えられています。

当資料は、口縁と耳の一部欠失していますが、ほぼ完形の優品です。体部径が約20cmと小さく、角状の双耳も形骸化していることから、古墳時代後期の終わり頃(6世紀末)に所属時期が求められます。

当資料の体部中央には、以下の注記が見られます。

① 花岡八幡宮々司 村上文健氏 寄贈 一九五〇・七・二九

この注記から、昭和25年(1950)7月29日に、下松市に所在する花岡八幡宮(和銅2年(709)に宇佐八幡宮より勧進されたと伝わる)の宮司より山口大学の誰か、もしくは何処かに寄贈されたものと推測されます。

先日、寄贈者のご子息である現宮司に聞き取り調査を行いました。話によると、昭和3年に「御大典記念碑」を建設した際に出土したのではないかとのこと。八幡宮裏の丘陵の現地調査を行ったところ、確かに記念碑横に古墳状のマウンドがありました。他にも複数出土品が存在したようですが、現在は散逸したようです。貴重な情報をありがとうございました！